

[成果情報名] 半促成長期どりアスパラガスにおける夏季追加立茎とBA液剤の複合処理の増収効果

[要約] 夏季追加立茎に加えBA液剤処理することにより、8・9月は減収し、10月および2～4月（翌年春芽）が増収する。年間収量はやや減少するが、販売金額は同等となる。

[キーワード] アスパラガス、半促成長期どり、夏季追加立茎、BA液剤、収量

[担当] 長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・野菜研究室

[連絡先] (代表) 0957-26-3330

[区分] 野菜

[分類] 指導

[作成年度] 2015年度

[背景・ねらい]

長崎県における半促成長期どりアスパラガスの収穫期間は2～10月であり、収穫始め期の春芽前半および萌芽数が減ってくる10～11月には国産が少なく、高単価である。これまで夏季追加立茎により翌年春芽が増収することが判明しており、春芽に加え更に10～11月の増収による年間収量の向上を目的に、夏季追加立茎とBA液剤の複合処理の増収効果について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 夏季追加立茎に加えBA液剤処理すると、夏芽は減収するが、翌年春芽は増収する。平均1本重および階級比率はやや向上する。（表1）。
2. 夏季追加立茎に加えBA液剤処理した夏芽の収量パターンは、追加立茎により8月から9月中旬にかけて減少し、BA液剤処理により10月に増加する（図1）。
3. 年間収量は、慣行よりやや減少するが、販売金額試算は同等となる（図2、表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 夏季追加立茎およびBA液剤処理することにより茎葉が繁茂するため、褐斑病等病害の発生に注意する。
2. BA液剤の登録内容は、希釈倍数は300～600倍、使用液量は100～300L/10a、使用時期夏秋どり、慣行最終収穫予定日の10～30日前（但し、収穫前日まで）、使用方法茎葉散布、注意事項として、若茎にかかると奇形を生じることがあるので茎葉下部への散布は控える。

[具体的データ]

表1 夏季追加立茎+BA処理が収量・品質に及ぼす影響

	区制	総収量	比率	平均1本重	可販収量		重量%					
		g/株	(%)	g/本	g/株	可販	2L	L	M	S	A品	外品
2014年夏芽	夏季追加立茎+BA処理区	161.8	(52)	9.3	130.9	81	0	7	19	47	8	19
	慣行区	309.8	(100)	8.2	244.0	79	0	3	9	58	9	21
2015年春芽	夏季追加立茎+BA処理区	468.8	(112)	15.6	455.0	97	0	50	31	13	3	3
	慣行区	420.4	(100)	15.2	395.0	94	9	34	24	11	16	6

※収穫期間:2014年夏芽:7月1日~11月10日

2015年春芽:2月8日~4月30日

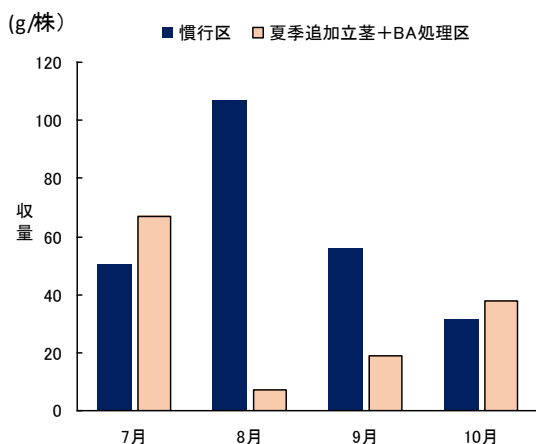


図1 2014年夏芽月別収量

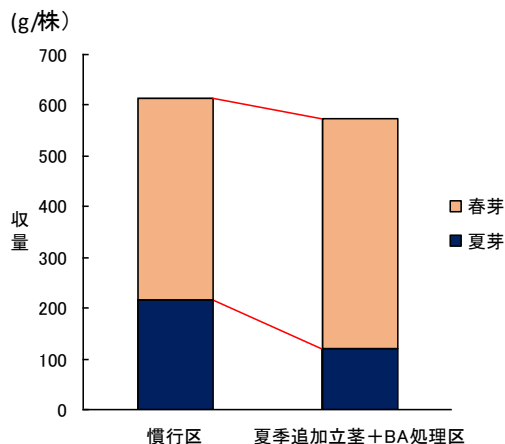


図2 年間収量(2014年夏芽+2015年春芽)

表2 販売金額試算(a当たり)

		2014年夏芽						2015年春芽				夏・春合計
		7月	8月	9月	10月	11月	計	2月	3月	4月	計	
夏季追加立茎+BA処理区	平均単価(円/kg)	809	589	735	825	822	791	1,465	1,138	1,344	1,239	1,139
	可販収量(kg/a)	13.4	1.4	3.8	7.5	0.1	26.2	3.1	48.2	39.7	91.0	117.2
	販売金額(円/a)	10,802	825	2,774	6,209	103	20,712	4,577	54,880	53,276	112,733	133,445
慣行区	平均単価(円/kg)	758	604	755	793	-	694	1,465	1,135	1,328	1,231	1,026
	可販収量(kg/a)	10.0	21.4	11.2	6.3	0.0	48.8	3.8	42.7	32.5	79.0	127.8
	販売金額(円/a)	7,579	12,890	8,439	4,978	0	33,886	5,565	48,476	43,172	97,214	131,100

単価は全農2013~2015年月別階級別平均単価を用い、月別階級別収量に乗じて試算

平均単価は、販売金額を可販収量で除して算出

耕種概要

1. 品種「UC157」、直径30cmポット栽培の2年生株
2. 追加立茎は2014年8月1日~9月15日まで処理し、BA液剤は10月15日に600倍液を100l/10a茎葉散布した。
3. 保温は夜間ハウス1重被覆し、農電マットをポットに敷いて地温20~25℃設定した。
4. 収穫調査は夏芽:2014年7月1日~11月10日、春芽:2015年2月8日~4月30日まで行った。

[その他]

研究課題名:積極的な光合成産物蓄積手法を用いた萌芽制御によるアスパラガス長期どり新タイプの開発

予算区分:農食研究推進事業

研究期間:2015~2017年度

研究担当者:陣野信博